

インターネットで全国に広める”ふるさとの味「日野菜」”

『日野菜プロジェクト』で地域学習・学校交流・情報発信学習



図1 日野菜

1. はじめに

滋賀県の南東部にある日野町は小高い山に囲まれた谷の中にある。ちょうど手のひらを広げたように五つの谷が延びている。その最も南よりの谷で、鈴鹿山脈につながる山に挟まれているのが本校の校区である。春になるとこの小高い里山の新緑をいっそう強調するかのよう、山裾に鮮やかな黄色い花が咲く。遠目にはアブラナにしか見えないこの花が、実は日野菜(図1)であり、五百年以上も前に石楠花谷で蒲生貞秀(戦国の武将蒲生氏郷の先祖)によって見いだされ、この地域の人々によってずっと守られてきたことを聞き興味を覚えた。そしてそれを調べるうちに総合的な学習のテーマとしての奥深さを感じた。この日野菜の学習を子どもたちと進めることで、日野が作り出した”日野菜”の味わいと歴史、そしてそれを守っている人々の苦勞を理解し、その”日野菜の味”を全国に広げる働きかけが、子どもたちと共に出来たら素晴らしいと考えた。

2. 学習のねらい

本校のある日野町南比都佐(ひづさ)地区は、日野菜の歴史の中でも谷を利用した地形で日野菜の原種を守る種栽培が行われており、まさに日野菜のルーツである。この郷土の歴史から生まれた特産物を調べる取り組みを通じ、子どもたちにこの地域やそこに住む人々の生き方そしてその文化を知り、郷土に誇りを持てる子どもを育てたい。

また、インターネットを使った情報発信で日野菜を全国に広めるとともに、他の学校・機関等との交流を深めるなどして情報活用能力や問題解決能力を高めていきたい。さらに、その取り組みの中で、自分の考えをしっかりと持ち伝えられる豊かな自己表現力や人と接するコミュニケーションの力を向上させたい。

こんなねらいを持って、種に込めた夢を広げるのがこの『日野菜プロジェクト』である。具体的には以下の内容に取り組んだ。

特産物日野菜を守る体験学習を通じ地域やその人々をより理解する。

全国に日野菜の種を広め、日野菜漬けを知ってもらい、食べてもらい日野菜を味わってもらおう。

日野菜の育ち比べを通じて、気候の違いや文化の違いを知り日本を理解していく。

種の広がりを通じて心を広め各地の人と交流を図る。

3. 『日野菜プロジェクト』実践の経過・方法

(1) Webの利用によるプロジェクトの成立

この『日野菜プロジェクト』の取り組みは二年前に始まる。農家の名人に指導をしてもらいながら、日野菜を育て、漬け物作りにも取り組んだ。その一方で、この土地の名前のある菜を「全国に有名にしよう!」と子どもたちは『日野菜探検隊』のWeb作った。

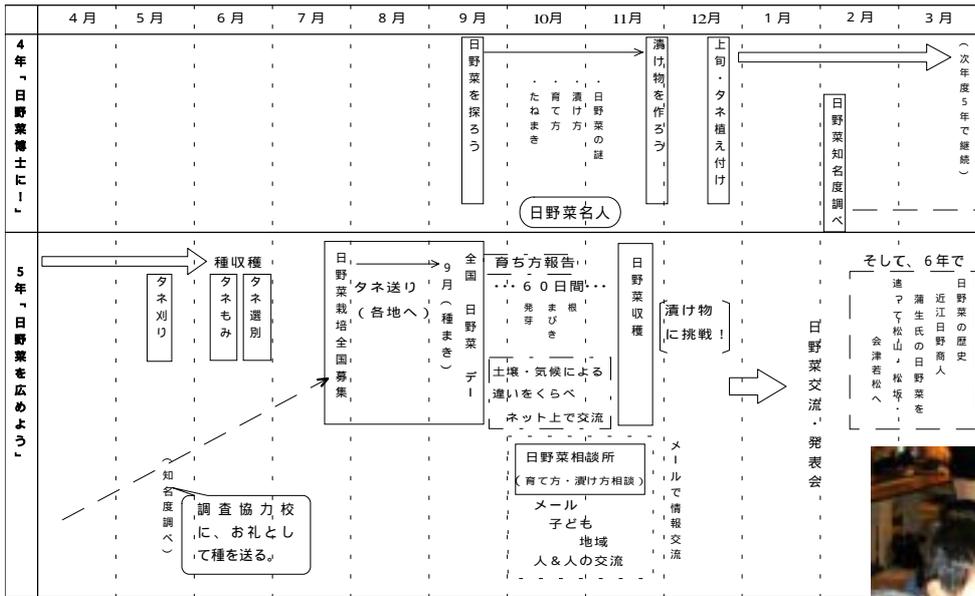
続いて翌年には、地元で守られてきた歴史ある日野菜の”種”栽培に挑戦し、採取した種は各地の小学校に送り栽培を依頼した。これは「気候や土壌によって日野菜のできがちがう」という地元の人たちの言葉を検証するための試みであり、同時に、交流学習を通じて日野菜を全国各地の人に知ってもらおうという狙いがあった。

違った土地での日野菜の育ちは学校ホームページのWeb『日野菜プロジェクト』(図2)で公開し、交流校からも各地の様子が分かるようにした。また栽培にあたっての質問は、子どもたち自身が地域に出かけ農家の人々に聞き電子メールで返答したり、Web上に日野菜相談所を設け掲示したりした。さらに、収穫後の食べ方等については『日野菜探検隊』のWebで情報提供をしており、子どもたちが作ったWebを幾重にも生きる学校ホームページになった。



図2 日野菜プロジェクト

(2) 学習課程



4. 成果と課題

インターネットの特性を生かせ今後いっそうの発展が期待できるのが、この『日野菜プロジェクト』である。しかも、パソコン、インターネットという仮想社会にとどまらず、パソコンの向こう側には交流する相手がいる、絶えず地域に土台を置いて現実社会との行き来の中で実践できるところに発展の面白さがある。こんなプロジェクトから得た情報教育実践の手応えを紹介すると、次の通りである。



図3 電子メール

- ・学校のホームページは作っただけで満足してしまいがちだが、「日野菜」というこの地域ならではの情報を発信することで、外部からも関心を持って見てもらえ、しかも交流校への情報提供の土台となる生きたWebになった。
- ・インターネットを生かした学校間交流をすることで、ホームページ制作やメール送信などコンピュータリテラシーを向上させることができた。今後、さらにいえばチャットやライブカメラを生かしたナマの交流へと進めていきたい。
- ・交流に具体的内容があり、相手もはっきりしていることで、漠然とした情報発信にならず、目的意識を持って取り組めた。特に電子メールの発信(図3)では、他校からの日野菜についての質問に対し、相手に必要な情報ははっきりとさせて集め、分かりやすく伝えるよう意識付けることができた。一方で、子ども一人ひとりの情報活用能力をいっそう高めていく日頃からの取り組みが求められた。
- ・地域の人々とのつながり、地域のよさを取り込み、無理なく地域の人に活躍してもらえる地域学習ができた。さらに、日野菜の情報を集めるために地域の人々に接するなど、コミュニケーションの力を高めることができた。

5. まとめ

昨年度は京都市立梅小路小学校の三年生の来校、そして今年度はNHKでの全国放送という機会を得て「日野菜を有名にしたい」という子どもたちの願いは着々と進みつつある。なによりもこの子どもたちの取り組みをきっかけに地域が日野菜を守るために動き出そうとしているのは最大の成果である。この『日野菜プロジェクト』を通じて子どもたちに育てたいのは、自己表現力や学習への積極さである。小規模校の本校は単級で学級間の交流ができないが、インターネットを利用したこのプロジェクトで他の世界との交流はできる。日野菜という地域の誇るべき特産を”武器”に、交流を通し自分の地域に自信を持ち、意見や思いがもっと伝えられるよう育ててくれたらと願っている。

『日野菜プロジェクト』交流校

’01年度 黒石小学校(岩手県水沢市)古海小学校(長野県信濃町)清明小学校(福井県福井市)古瀬間小学校(愛知県豊田市)梅小路小学校(京都市下京区)

’02年度 白沼小学校(山形県小国町)檜沢小学校(福島郡田島町)上野小学校(新潟県川西町)

相川小学校(神奈川県厚木市)西谷小学校(島根県広瀬町)三丘小(山口県熊毛町)大野小学校(徳島県阿南市)

この『日野菜プロジェクト』の様子は、本校のホームページ以外にも次で確かめられる。

5年生の様子は、NHK『たべもの新世紀』('03.1.5放映) < <http://www.nhk.or.jp/t-shinseiki/back/syoku84.html> >.

4年生の日野菜の観察記録は、NHK『食料プロジェクト：こども体験隊ネット』 < <http://www.nhk.or.jp/shokuryo/> >.